

磐城時報

八夕 日刊

編集者 石城郡平町町長 橋本 忠臣
 印刷者 石城郡平町町長 橋本 忠臣
 印刷所 石城郡平町町長 橋本 忠臣
 電話 一〇二二
 代金 毎号五錢
 送金 毎月一元二角
 訂金 毎月一元二角

待ちに待った 御大典に迫る

石城地方の奉祝準備

平町の各町が互に競って趣向を凝らした奉祝の装飾は七日ではして萬歳を三唱し十一日午後六時迄出来上り、今は御即位式時から全員(當番の者は家族一同行はせられる十日の日を一日名代理)が縣社子歙倉神社に集り奉祝の準備に忙しむる中、千秋の思ひで待ちわびてゐる十合し提燈行列をなして町内を練り歩む。午前九時から急務奉祝町會を開き、宮内省告示の奉祝文を議決し、午後十時から縣郡會議事堂で高齢者に下賜された天賜された天杯並に酒肴料を傳達し引續き町からの記念品を授與して散會、午後二時官民一同が縣社子歙倉神社に参拜して松ヶ岡公園廣場に集合し、伏見町長の挨拶があつて一同帝都の方を拜して萬歳を三唱し、次いで祝宴會を催して散會する。

勿來町の奉祝

勿來町では十日午後三時小學校庭に官民合同の奉祝會を開き、小學校生徒はそれより旗行列をなして町内を練り歩き、夜は一戸一戸を訪問して祝宴會を催して散會する。

平驛の奉祝

平驛平機關庫勤務員五百余名の奉祝方法は十日午後三時を期し、驛員はホームに機關庫員は工場

皇恩會で 奉祝宣傳

皇恩會では曠古の御大典を奉祝する意味を以て左の如き宣傳ビラを撒布することに決めた。

預金取扱

平郵便局では来る十日御大典當日は休日であるか午前中は郵便業務を停止し午後からは郵便業務を再開する事になつた。

予備り奉寄附

郡田人村井戸澤部落の逸見萬吉氏は山田小學校に運動器具等(價額百五十圓)を寄附する事になつた。

湯本有志六十餘名 地下採掘裁判を傍聴

中里辯護士が湯本町の悲惨な現状を詳述

石城郡湯本町の死活問題とされたが、郡下大會ルルによりてゐる吉本元入山炭礦業所長参加チームは尋常、高等制限た對し、湯本町裁判所が行政裁判第一各案に参加を勧誘中であるが六回口頭辯論は七日午前十一時から十日午後九時まで、増田、阿部兩辯護士被告側の仙臺山監督局清水惣吉氏外湯本町代表参加して福岡、中里兩辯護士列席傍聴には問題の吉本眞一氏をはじめ小泉湯本町長外六十餘名が詰めかけ先づ裁判長から吉本氏に對し訊問あり中里辯護士は湯本町が往年吉本氏の所長時代入山炭礦の濫掘により湯道を断たれ温泉地としての生命を失ひ大問題を惹起した事及び最近其山炭礦の發掘區域の市街地下に及んだため墓地等に崩壊を來し死屍累々として露出せる凄慘なる現状からその寫真等を證據品として提出し湯本町は何れも毎回の傍聴に町民から審附を得て上京してゐる有様で決定的なものがある。

八十五歳の老婆の 雑巾二百枚寄附

校長感激して兒童に訓話

石城郡山田村請負業大平又二氏にせつせと雜巾縫ひをしてゐた老婆が、今年百五枚出来あがつたの八十六歳の老婆であるが、おで寄附した、猶二百枚にすべくして、すく、壯健に眼鏡を用ゐる仕事をつとめてゐるが、この老婆針仕事等なし居るが、昨年来母の奇篤な心掛に同校登原校長雜巾二百枚を同小學校に寄附すは、大いに感激し特に生徒に訓話すべく、不用の布を以て人手を借す。

平町上水道 擴張工事方法

八配水池 配水池は既設配水池の西側に設け形状は長方形にして大きさは長さ八十三尺幅五十五尺高さは面上百九十四尺にして有効容量五萬二千立方有る構造は凡て鉄筋混泥土造にして内部に厚四寸の鉄筋混泥土の導流壁を四列に設け池底は厚一尺二寸の混泥土を敷き中しには「アスアルト」原五分

窃盜で捕はる 叶多敏彌

平町北目酒造葉多敏彌(三十八)は數年前平町鎌田町遊樂場樓に放火した前科者であるが、去る十月三十一日平町北目町で平町久保町木炭商大庭常三郎の木炭四俵を荷車の上から窃取し荒川種政(四十二)は去る四月草野更に好間村川中子野柴商佐藤村泉崎三谷本田某の石炭取引作太郎のリヤカー一臺を窃取先植田町野柴礦業部石塚國太郎し木炭は平町鎌田町雜貨商佐藤

忠臣藏

新巻 忠臣藏

市川百々之助大熱演
幕末 朱鞘組 第四篇
入場料 完結篇
特等六〇 二等四〇
一等五〇 小人半額

平町上水道 擴張工事方法 (四)

を挿入す導水路は下流に向ひ五百分の一の勾配を付し内部の洗滌に便ならしむ。側壁の内面は直立にして上部に於て厚三尺下部に於て厚六尺の混泥土打とす尚ほ其の間「アスアルト」厚五分を挿入して漏水を防止す又池内に二尺角鉄筋混泥土造の支柱二十本を設け池蓋を支へしむ。蓋は鉄筋混泥土造床版にして丁字形により支柱に緊繫す。

集金を落したと稱し 新田町で藝妓買ひ

米屋の横領店員捕はる
夏井村大字山崎字明石内一二七だが、熊男は田地を一男に渡さず番地生れ箱崎千代治(二四)は大自の實弟國井利夫に賣つて正十五年から平町三丁目米穀商仕舞つたので平署に詐欺の告訴梅原利三郎方に店員として雇はをされた。

質商取調へ 好問村上
好問質商金成佐一郎(四二)は十月廿九日平署で質屋臺帳の調査を行つた處、入質物を記載して千鳥及び、やぶで藝妓を招き遊るなかつたので平署で取調中である。

一重賣

上小川村字上小川國井熊男(三三)十分比佐保吉方貸間小松留之(〇)は昨年暮所有地三反歩を一助方座敷に於て十丹と稱する花千九百五半圓で同字長瀬一男に合せ賭博開帳中平署刑事に捕は賣却の契約をなし代金を受取つた。

小名濱の賭博

小名濱町本町料理店比佐保吉(四八)同字中坪魚商小松留之助(五四)湯本町字三國魚商菅野友藏(三九)の三名は七日午後二時

地方に容易に見られる菊人形

御大典奉祝
菊花大會
▲期日 自十一月三日(日)午前八時迄
至十一月十七日(日)午後十時迄
▲會場 平町元郡役所前廣場
▲入場料 (大人二十錢)團體は半額
(小人十錢)但し五十人以上
▲出品 大輪菊懸崖菊數百鉢
▲菊人形數場面十數人
▲菊人形は東京より専門家を聘
して作成せしものはそれが經費
三千余圓

會大花菊 町平 催主

奉祝御大典記念特別大行

維新の京洛

品作督監 保富田池・壽映念記典大御活日
演出總員全活日外 郎次傳内河大・一嘉本
井米 井酒 郎五 部 山河

當ル九日ヨリ上映
◆松竹超特作品◆
原 作 島 津 池
監 督 島 津 保 次
主 演 給 木 傳 明 郎
助 演 松 井 千 枝 子

海の勇者

御即位式 祝賀第一報

行興別特 等特 大六
上 值 金 料 小三十
壹等 小二十五
貳等 小二十
付 行興別特 等特 大六
十日より六日間晝夜公開

伊勢參宮 紫宸殿拜觀 奈良巡拜

遊覽團體開

◆明春貳月貳拾日
廿九圓五拾錢
但し(申込と同時に金五圓を納入し
残額は二月迄五回に分納の事
人員... 貳百名の豫定
◆申込... 事務所 尼子亭
通信班及び救護班を設く

即刻申込 募集期間中と雖も満員の際は締切り候

主 催 者 尼子亭 吉田直之助
會 計 監 督 山崎清三
會 計 志賀盛榮
後 援 員 平野長 豐崎治助
常 盤 毎 日 新 報 社
警 務 所 警 務 所 警 務 所
尼子亭 松ヶ岡公園内(電話三三〇番)

印刷物の御用は... 加納活版所

謹啓平素は格別の御愛顧を
添ふし奉深謝候
就ては弊店も亦聊か御大典
を祝し奉る微意より来る十
一月九日、十日の二日間銘
酒由良乃助瓶詰を下記の特
價にて販賣いたすべく候間
今後共何卒倍舊の御愛顧御
聲援の程希上候 敬白
昭和三年十一月八日

銘酒 ケスノラユ

一升瓶詰 一本壹圓
四合瓶詰 一本四拾錢
二合瓶詰 一本貳拾錢

◎從來通り空瓶交換をいた
します

永山酒造店小賣部
電話二〇七番

蒲鉾店開業廣告

私事二十數年間藤市蒲鉾店に在つてその製
造に従事致居候處今回獨立して蒲鉾製造販
賣に従事する事に相成候材料風味共に吟味
致す考に候間何卒藤市蒲鉾店同様御最貴御
引立の程伏して奉懇願候

蒲鉾類一式 御祝儀引物一式

さつ ま あ け
吉原 申 あ け
電話二四二番に御申越次第迅速配達いたします

平町一丁目(電話二四二番)
折詰仕出し 藤 寅
菊地寅治郎

安齋外科醫院

目科療診
花内外 柳臟科 病外一 科科般
▲診療時間(午前八時より午後九時まで)
但し急患は此の限にあらす

平町田町大通り(電話四三六番)

鼻の薬 チクノール

鼻の薬、チクノール
平五 山野邊藥局

スナイプ ナフール

スナイプ ナフール
新着 尺
モスリン着尺
新柄
ホグス銘仙
その他
色々取揃申候
電田屋 電五七